

(様式7)

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 9月12日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長や所長は明確なビジョンを持ち福祉事業に力を入れている。経営理念である「顧客の満足」も周知徹底され、職員の育成をはじめ日々のケア実践まで貫かれている。開かれたケア実践をと、県下ではじめて利用者や家族、同業者等120人が参加した研究発表会を開催した。利用者の希望で窠元に見学に行ったり、趣味の笛を吹いてみんなで歌を歌って楽しんだり、図書館に本を借りに行ったりと希望やペースが大切にされ利用者は穏やかな笑顔のある生活を送っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） ①地域とのつきあい②同業者との交流③馴染みながらのサービス開始④介護計画の見直しを一ヶ月に⑤役割や楽しみごとへの支援等の改善課題に対し、運営推進会議や職員の検討を経てそれぞれ前進改善した。引き続きの課題として入浴や食事への支援がある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価や外部評価は法人としても重要視されており、前回の外部評価で明らかになった課題は職員間の話し合いを通じほとんどが改善された。今回の自己評価は時間的な制約から職員の意見を聞きながらも、介護主任と計画作成担当者が中心になってまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 利用者の様子やホームの活動状況、運営規定の変更、ショートステイの開始等が報告されている。参加者から積極的な情報提供が行われ意見交換も活発である。地域交流や日常生活支援に対する要望等、それぞれ運営やケアに反映している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 毎月、領収書や金銭残高、諸行事の参加案内とともに、担当者が書いた利用者の暮らしぶりを書いた手紙を同封している。広報紙「はばたき」を年4回送付している。家族からは感謝の言葉が多く、意見や要望はあまり出ない。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 今年度の法人重点課題として地域貢献があげられ、地域に出て行く活動が活発となった。利用者は運動会で住民と交流したり、自分が書いた書道や手作りの陶芸やガラス細工等を文化祭に出展した。職員も貢献活動として職員会の前に周辺の缶拾いを行っている。地域住民や他事業所にも広報を配布している。

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271800397
法人名	社会福祉法人 吾郷会
事業所名	グループホーム マホロバの里
所在地	島根県邑智郡美郷町長藤745-5 (電話) 0855-82-2506

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年10月28日

## 【情報提供票より】（20年 7月18日事業所記入）

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 9月 11日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 8人
職員数	10人 常勤7人, 非常勤3人, 常勤換算4.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	1階建ての ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	780 円		

### (4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 92歳	最低	85歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	秦クリニック・波多野診療所・三次中央病院・大田市立病院・福間歯科医
---------	-----------------------------------

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の経営理念や事業所の個別理念がある。重点課題として地域貢献が取り上げられ、様々な活動が行われているが、地域密着型サービスの内容が分かりにくい。	○	実際に行っていることを踏まえ、地域密着型サービスの考え方について運営方針や理念に明記して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の介護理念である「利用者一人ひとりが自立した生活」ができるよう、日々のケアやミーティングで確認し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会への参加や文化祭では陶芸やガラス細工、書道等利用者の作品を展示した。毎月職員会議前に周辺の缶拾いをする等、地域貢献活動を開始し、地域の方々と意識的に交流するよう心掛けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価で明らかになった課題は、職員間で検討し改善してきた。今回の自己評価は職員の意見を聞きながら主任と計画作成担当者が中心となって取り組んだ。自己、外部評価の意義は職員全員に周知されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員が参加しやすい曜日へと開催日を変更した。参加者からは積極的に地域の情報提供や意見や要望が出され、地元の運動会や文化祭等の参加が実現した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員等とショート対象者や待機者、町が行う療育音楽の取り組み等の情報提供があり、事業所の運営やケアに活かしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、領収書や金銭残高、行事の参加案内とともに利用者の様子を書いた担当者の手紙を送っている。他に年4回発行の広報で法人やホームでの取り組みを知らせている。職員異動も周知している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム外に苦情相談員を置いたり、職員も不満や意見要望を出してもらうように心掛けている。出された要望等にはきちんと対処しているが、意見や苦情があまり出ない。	○	家族アンケートの実施や毎月のお便りに「返信用ハガキ」を同封する等、意見把握のためのさらなる工夫を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は適材適所の人事配置を重視している。馴染みの関係も大切にされ、今年度の異動予定はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ計画的に参加したり、法人内でも外部講師による全職員対象のキャリアアップ研修等、法人として人材育成に力が入れている。外部研修後は毎月の職員会議で伝達している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修や会議等を通じ同業者との交流がある。近隣の同業者と相互訪問の実施を計画している。管理者や主任からはじめその後職員に広げて行くもので10月頃に開始予定である。	○	計画されている同業者との交流や相互訪問を実現して頂きたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に見学してもらったり、入居直後には家族に頻回に面会に来てもらう等、相談や協力をしてもらいながらサービスを開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜や花をともに作ったり、鍬の使い方や肥料のやり方等利用者から学んでいる。次長による書道教室や管理者の法話等職員の特技を活かした支援もある。利用者の作品は展示会に出す等職員とともに喜び楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の導入により、利用者の生活歴や趣味、できること等がより把握可能となった。問題対策型思考から、今までの生活を継続させる視点や利用者の希望や思いを汲み取る思考へと変化してきた。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面接調査やアセスメントを参考に、入居後2週間の暫定プランを立てている。本人や家族の参加のもと要望を聞きながら、本プランを作成している。欠席等都合の悪い時には、前もって意見要望を把握し、プランに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に一ヶ月毎に見直しを行い、退院後や利用者に変化があった場合には、都度プランを変更している。生活全般の把握のためアンケートやモニタリングを実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	7月よりショートステイが利用可能となった。受診時の同伴は原則家族となっているが、緊急時や家族が遠方の方等は管理者を中心に柔軟に対応している。外出希望は都度支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医に受診したり、往診を受けている。各医師とは電話で相談して指示を受ける等、連携はスムーズである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況や家族の要望に沿って、ホームでできるところまで対応しようとかかりつけ医と相談したり、併設施設の職員の助言を得ながら終末期のケアに前向きに取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や排泄時等、耳元で他の利用者に聞こえないよう、状況に応じてさりげなく支援している。個人情報に関する記録類は決められた場所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室の掃除や草取りをしたり、廊下のソファで利用者同士で談笑している。自分の下着を洗濯して干す人、本を借りに図書館に行く人、毎日笛を吹いて楽しむ人等利用者のペースや希望が尊重されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併施設で行われ、職員と一緒に盛り付けや片付け、食器洗い等を行っている。時にホットプレートでケーキや芋を焼くことがある。職員が焔で取れた野菜の炒め物や持参の漬物やトマトを振舞っていた。	○	今ある調理設備を活かし、月に何度か簡単な料理でも作られるを期待したい。また食事と一緒に摂られることが望ましい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により入浴できるよう毎日沸かしているが、現在のところ夜間や毎日入浴する利用者はいない。利用者のペースや意見に合わせて、ゆったりと入浴している。	○	入浴回数を多くするために入浴への希望を引き出す等、積極的な支援に期待したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のやりたい事に力を入れている。月2回の書道や陶芸、ガラス細工教室もあり、作品は町文化祭にも展示されみんなで見学した。全国書道展で入賞され本人や家族の喜びとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	実家へのドライブや近くの東屋迄散歩したり、歩行困難な方は外気浴をする等、希望に沿って支援している。時に戸外での弁当や併施設合同の食事会、ホーム独自の夕食会も行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠し、センサーは使用していない。帰宅願望の利用者にはその原因を把握し、臨機に対応したり見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署とともに併設施設との日中夜間を想定した合同避難訓練をはじめ、消火器の使い方や消火栓の使い方等、年2回実施している。備蓄品も併設の施設で確保されている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量が把握され献立はバランスが取れている。利用者毎にペットボトル入りの番茶があり摂取量把握の工夫がある。ヤカン入りの番茶もあり生活習慣に配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内部に中庭がある。庭に向かってソファが置かれ、利用者が花やツバメの巣づくりのことで談笑していた。居間は季節の花が生けてあったり横になれる畳コーナーもある等、くつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたベッドや箆笥、椅子や机、お茶道具等が持ち込まれている。単行本が置かれ居室で読書を楽しむ利用者もいる。各居室にはトイレや洗面所があり広くゆったりとしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。